



8 瑞彩

三帖

富岡鉄斎ほか七十三名の合作、題字・松方正義、跋文・宇佐美勝夫
大正十三年（一九二四）

絹本着色

本紙各二八・二×四〇・六

総各三四・七×四七・三×一四・五

大正十三年（一九二四）に皇太子裕仁親王（昭和天皇）と久邇宮良子女王（香淳皇后）の御成婚を祝って東京府から献上された画帖である。上中下冊の三帖仕立てで、各帖二十五面ずつが貼り込まれる。東西両画壇を代表する総勢七十三名の画家が筆を寄せた大作であり、上冊冒頭には松方正義公爵による題字、下冊末尾には宇佐美勝夫府知事によって奥書が記されている。

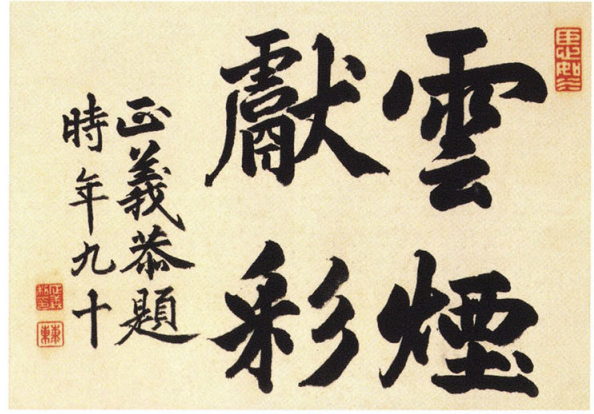
また本画帖の制作には構想段階から東京美術学校校長正木直彦（二八六二～一九四〇）が深く関わり、画帖の装丁や画帖を納める容器は、東京美術学校の依頼製作によるものである。画帖、収納箱とも同校教授渡辺香涯（一八七四～一九六二）によって伝統と格式を尊重した意匠にまとめられていた。制作の経緯や画帖および収納箱の意匠等については、48頁からのコラムにその詳細を紹介している。画帖には、正木の筆によって揮毫した画家とその画題が記された目録が付属する。



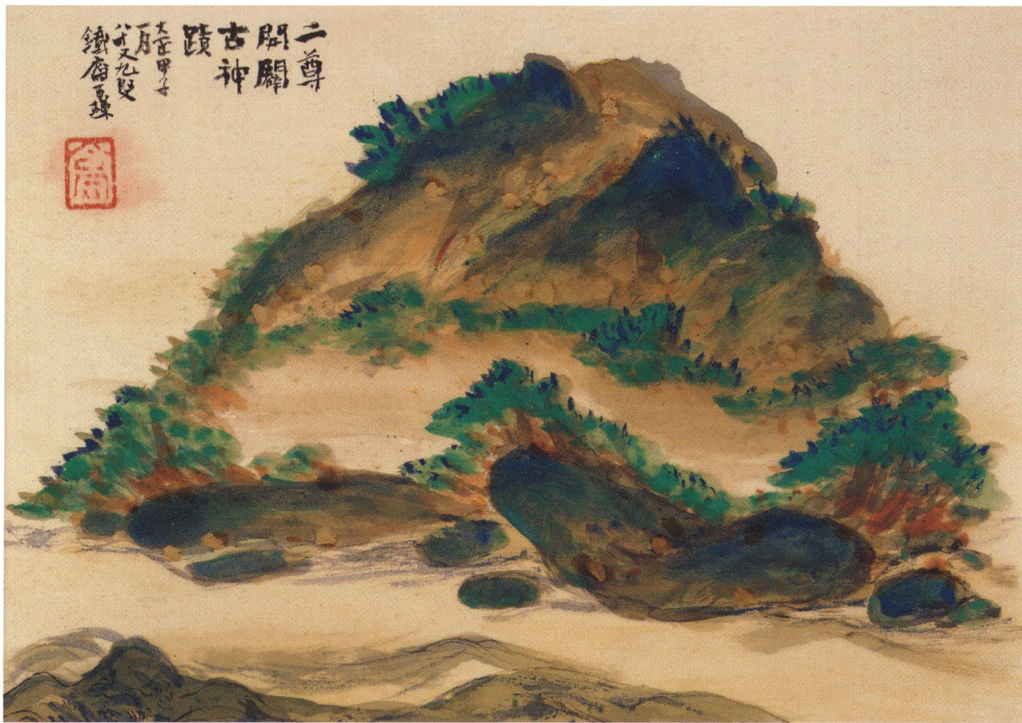
付属の目録



③ 今尾景年 梅花鴛鴦



① 松方正義 題字



② 富岡鐵齋 磯馭廬島



⑤ 池上秀畝 孔雀



④ 磯田長秋 業平逍遥住吉浜岡



⑦ 石井林響 白鷗



⑥ 池田桂僊 蓬瀛瑞色



⑨ 速水御舟 生果



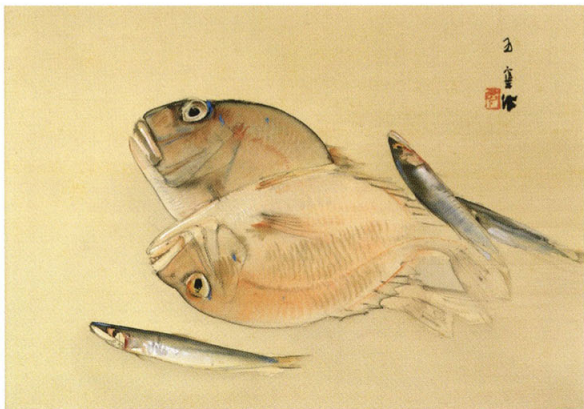
⑧ 石崎光瑤 雪山の石楠花



⑪ 橋本永邦 耕作



⑩ 橋本関雪 仙家献寿



⑬ 西村五雲 春の香



⑫ 橋本静水 鯉魚



⑭ 西山翠嶂 白鷹



⑮ 堂本印象 耕作

⑰ 小川芋銭 秋収



⑯ 富田溪仙 春日の神楽



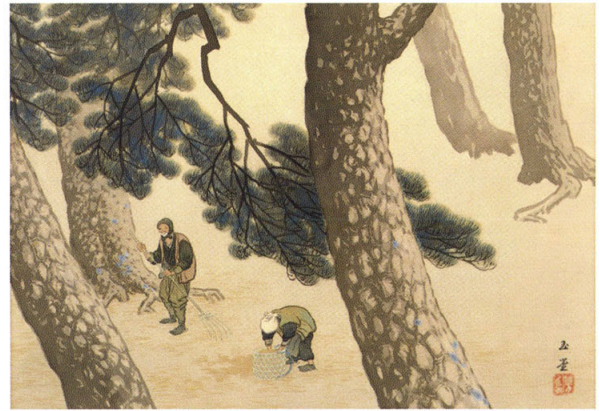
⑱ 川端龍子 御盃



⑳ 川村曼舟 湘南の風光



⑱ 大智勝観 暁雪



㉑ 川合玉堂 時津風



㉔ 勝田蕉琴 新生



㉓ 川北霞峰 富士

㉕ 鏑木清方 明鏡



② 吉田秋光 鳳仙花



① 横山大観 靈峰



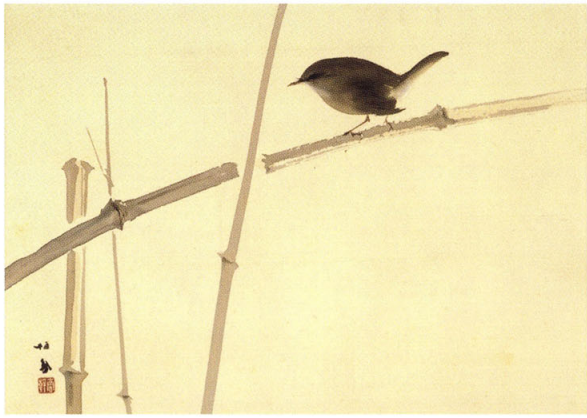
③ 吉村忠夫 春光



⑤ 高取稚成 蟹



④ 田中頼璋 東海大観



⑦ 竹内栖鳳 春



⑥ 高島北海 七草



⑨ 土田麦僊 大原女



⑧ 都路華香 祐井



⑫ 中村大三郎 薫香

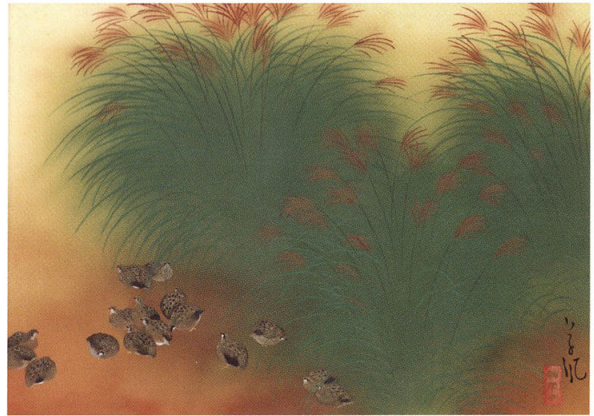


⑩ 葛谷龍岬 三笠月

⑪ 中村岳陵 御吉兆



⑭ 上村松園 雛祭



⑬ 長野草風 秋の野



⑯ 矢澤弦月 春の海

⑮ 野田九浦 高千穂



⑱ 山村耕花 かほり



⑰ 山田敬中 富岳



①⑨ 山内多門 静海旭日



②① 山元春拳 瑞香满瓶



②③ 松林桂月 東籬佳色

②⑩ 山下竹斎 慶雲昌光

②② 安田靱彦 春光

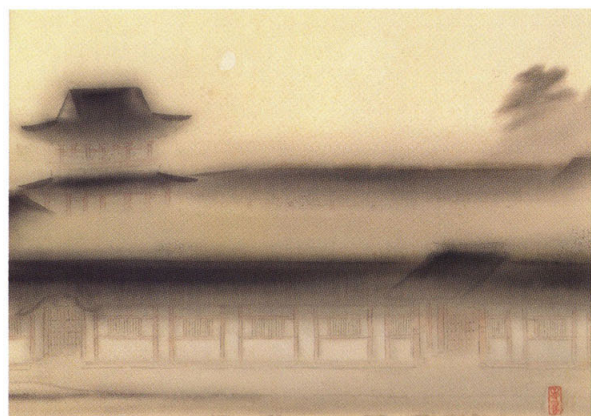


②④ 松岡映丘 鷹

②⑤ 前田青邨 沙魚



① 小堀鞆音 窟前歌舞図

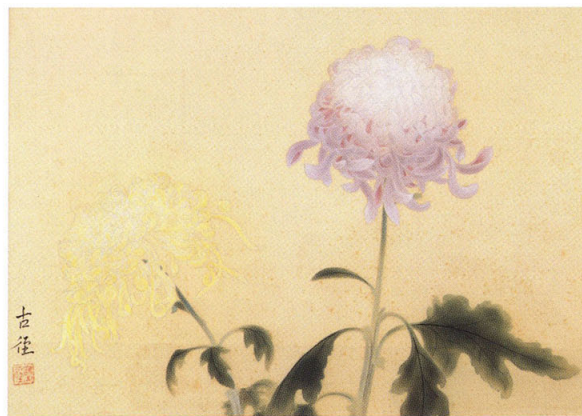


③ 筆谷等観 太宰府の月

② 福田平八郎 雛鶴



⑤ 小室翠雲 群僊供寿



④ 小林古径 菊花



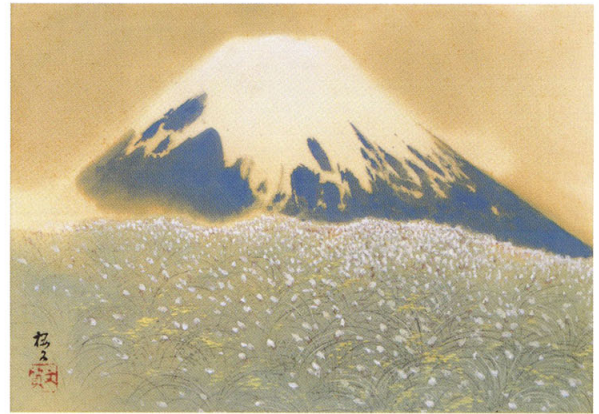
⑦ 小茂田青樹 母子の雀



⑥ 小村大雲 上古武人の遊獵



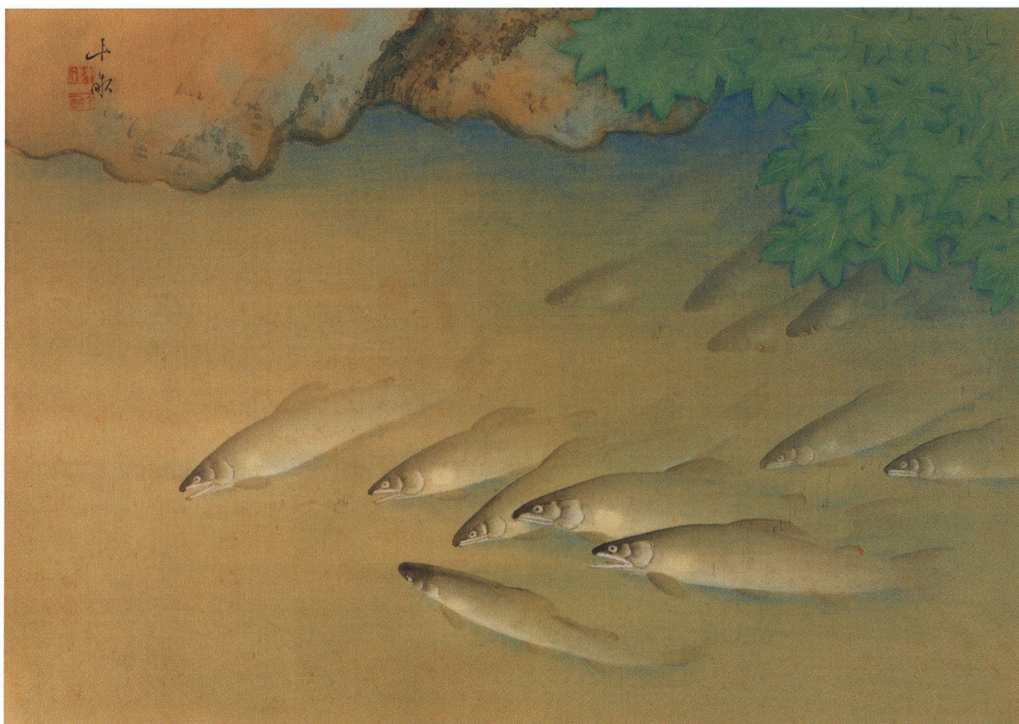
⑩ 荒井寛方 日出る時



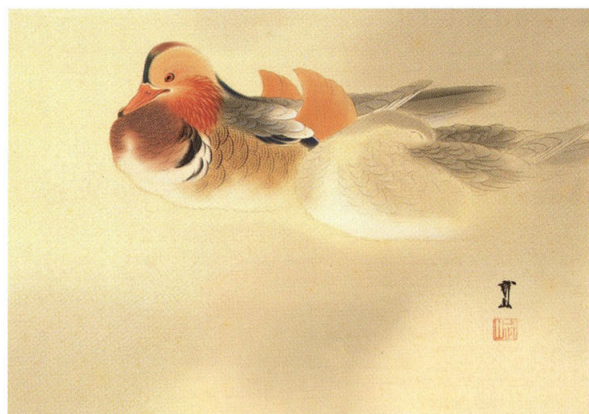
⑧ 木島桜谷 裾野



⑨ 近藤浩一路 獅子舞

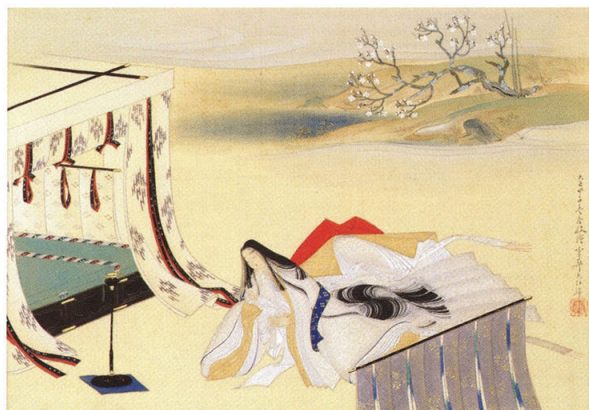


⑪ 荒木十畝 香魚



⑬ 木村武山 鴛鴦

⑫ 榊原紫峰 白梅双鳩



⑮ 吉川霊華 梅薫る夕



⑭ 北野恒富 白鷹



⑱ 水田竹圃 松林高士



⑲ 菊池契月 牡丹

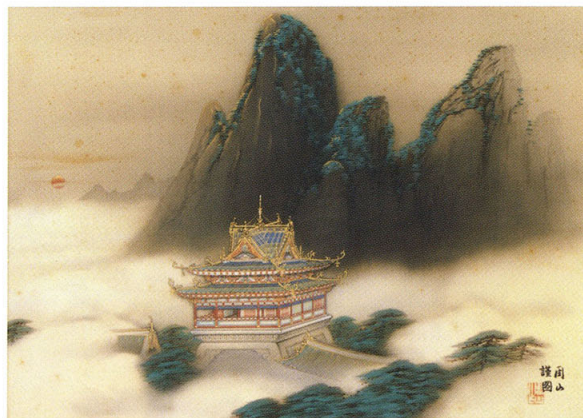


⑳ 水上泰生 秋色



㉑ 下村観山 寿星

㉒ 真道黎明 雪山暮色



② 飛田周山 僊山樓觀圖



④ 平福百穂 双峰瑞雪



② 平井模仙 耕作

③ 平田松堂 燕子花

恭惟
 皇太子殿下虔遵
 睿訓恪率宏規既得
 好速叶鳳凰和鳴之吉茲行慶典定琴瑟友樂
 之祥
 先倡後隨崇
 二尊伉儷之道既仁且孝固
 一系聯綿之基祝
 皇統之無疆頌
 天顏之有喜朝野遠近莫不謳歌我東京府居
 九重之下為首善之區蒙
 化尤深霑
 恩殊厚幸逢
 盛典喜倍恒情乃定府議選畫人七十三家各作
 一幅裝為三冊名瑞彩帖謹以
 上進方雲烟獻彩之時快揮綵筆寫草木呈祥
 之象敬展葵誠 勝夫際會
 昌期承乏知事因陳衆志恭書冊尾
 大正十三年一月二十六日
 東京府知事 宇佐美勝夫

⑤ 宇佐美勝夫 跋文 奉獻辭

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

ひろげる、たのしむ、小粋な日本画 — 近代画帖の美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.55

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年七月二十三日発行

© 2011, The Museum of the Imperial Collections